

学ぶ視点幅広い 就業体験

岡山県立大で学生ら成果発表 「吉備の杜」シンポ

大学院生らがプロジェクトの成果や課題を話し合ったシンポジウム



岡山県立大が中心となって、地域の産業活性化に貢献する人材を育てる「『吉備の杜』創造戦略プロジェクト」のシンポジウムが11日、総社市窪木の同大で開かれ、企業や自治体でのインターンシップ（就業体験）に参加した学生らが成果と課題を発表した。

県立大はプロジェクトの一環で、食、ICT（情報通信技術）、木材・建設の3分野で地域課題をテーマに授業を実施。4年生と大学院生は、県内で就業体験に臨み、商品や新技術の開発などに当たっている。

シンポジウムでは、学生や受け入れ企業の担当者らが見解交換。大学院1年で栄養学を専攻する長塩優香さん（23）は、中山間地域にオープンしたキャッシュレスの無人店舗「スマートスニア」を支援する真庭市で、職員らと商品開発に携わった。当初、栄養面を考えて

すしを提案したが、人手不足で難しく、おむすびに変えた経緯に触れ「自分の専門分野にとらわれるのではなく、地域の実情など幅広い視点で考える大切さを学んだ」と話した。

他の学生は「魅力ある地元企業と学生とをマッチングする場が少ない」と指摘。企業側からは「意欲の高い若者の視点に触れ、社員も勉強になった」との意見もあった。

県立大の沖陽子学長や真庭市の太田昇市長らによるトークセッションもあった。企業関係者や学生ら約120人が聴いた。

プロジェクトは文部科学省の採択事業。県立大や県、山陽新聞社など県内25企業・団体による協働組織が2020年度から進め、24年度が最終年度となる。今後は5年間の取り組みを共有する他、地域住民らも参加する形の事業を検討するという。（松尾紗英）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。